

大浜学園だより

平成29年4月号



大浜中学校区子ども育成支援協議会(大浜学園)の方針

子どもたちの成長を支援 保護者の子育てを応援 先生方の負担を軽減

問い合わせ先: oohamagakuen@gmail.com

子どもに勝る宝物は、他にない 勝れる宝 子にしかめやも

3月19日(日)に「恩愛の碑」の除幕式がありました。この碑は、故大石徳四郎さんの旧宅にあったものです。大石徳四郎さんは、新聞記事にあるように一代で財をなした旧大浜町の出身の方です。

一人息子を戦争で亡くした大石さんは、子どもが何物にも代えがたいものだど痛感し、郷土(大浜町)の若者のために、現在のお金で2億円以上を寄付してくださいました。そのお金は、図書館の本、ピアノ、そして奨学金として使われました。恩愛の碑には、次のような山上憶良の歌(万葉集)が歌碑として刻まれています。

しろがねも こがねも たまも なにせんに
銀も金も玉も何せむに
まされる たから こに しかめやも
勝れる宝 子に及かめやも

この歌の意味は、「銀も金も宝石も、どうして優れている宝である子どもに及ぶだろうか、いや及ばない。」という意味です。

前述したように大石さんは、一代で財を築きましたが、跡継ぎである息子さんを亡くし、呆然自失の状態になりました。そこで改めて、どんな宝よりも子どもが大切だと考え、郷土の若者を育てようと考えたのだと思います。大浜学園も子どもたちの成長を支援するために、大石さんの意志を継いで全力でとりこんでいきたいと思ひます。



平成29年(2017年)3月21日(火曜日) 静岡新聞

故大石徳四郎氏の碑移設

故郷掛川で除幕式

掛川市大坂出身の篤志家、故大石徳四郎氏が静岡市内の旧宅に造った恩愛の碑が、地元大坂の有志らによって故郷の掛川市立大東図書館敷地内に移設され、19日に移設完了を祝う除幕式が同図書館で開かれた。

大石氏は大正時代、苦学の末に全国に先駆けてセメント瓦の会社を興し、業界の発展に尽くした。1人息子を戦争で亡くしたのを機に歌人としても名を揚げ、郷土の若者のため奨学制度に私財を投じた。

静岡市の旧宅が解体されることになり、昨年からは大坂地区まちづくり協議会や奨学金を管理する財団の有志らが、地元で募金を集めるなどして移設に取り組んだ。



移設した石碑を除幕して祝う地元関係者ら
＝掛川市立大東図書館

一橋美衡氏が刻んだ。奈良時代の家族の姿を描いている。除幕式は地元住民ら約100人が参加し、移設事業実行委員会の川口功会長は「多くの人の協力で移設が実現できた。子どもの教育に尽くした遺志を今後も顕彰したい」と述べた。

大東図書館の玄関前にあります。お出での際に御覧になつてください。

静岡県教育委員会『お父さんの子育て手帳』より 基本的な生活習慣をしつけることはなぜ大切なのか

正しい生活習慣が子どもの心身の健康を守り、社会性をはぐくみます。

食事の習慣、睡眠の習慣、排せつの習慣、衣服の着脱の習慣、清潔の習慣などの基本的な生活習慣は、生きる基本です。基本的な生活習慣が身につくことは、子どもの自立のもとになります。また、正しい生活習慣のしつけは、子どもの心身の健康を守ることにもなります。

これができていないと、次のような問題につながる可能性があります。

- ◆ バランスの取れた栄養が与えられないに伴う体調・発育不良
- ◆ 睡眠不足から起こる体調・発育不良
- ◆ トイレの失敗による集団生活への不適応
- ◆ 着替えの自立の遅れ、虫歯の発生

では、どのように基本的な生活習慣をしつけたらよいのでしょうか。

あせらず、じっくりと繰り返してしつけることが大切です。

基本的な生活習慣は、やりたくないけれどもやっているうちに、それをやらないと落ち着かなくなり、習慣化していくようになるといわれています。夫婦が相談し、一貫性のある指導を続けましょう。例えば母親が子どもにしつけている時、父親も「お母さんの言うとおりでよ」と、歩調をそろえてしつけましょう。歩調をそろえるとは、親の考え方や気持ちを共通に持ち、協力して子どもにかかわっていくことです。

家族そろって環境に気がついた生活を心がけましょう。

大切な正しい食習慣が身につけられるよう、家族そろって話しながら楽しく食事することは、家族のコミュニケーションを深めるためにも大切です。

子育てとは、
今の子どもの中に
すでにある、
いいところ、
がんばっているところ
を見つけて、
伸ばしていくことです。



参観懇談会は何のため？

近頃、参観懇談会のあり方が問題になっています。

例えば、保護者の方が授業に関係ないおしゃべりで子どもたちの話し合いができないなどということがよくあります。その幾つかは、右に箇条書きしておきました。幸い、大浜学園内では、ほとんど問題にはなっていませんが、お互いに気をつけていきましょう。

ところで授業参観は、何のためにあるのでしょうか？

授業参観をすることで我が子の授業中の頑張りを見届けるとともに、改めるべきところを見つけることではないでしょうか。お家に帰って、今日は、〇〇をがんばったねと聞いた時のお子さんの笑顔が目につかびます。その後で、あの時は〇〇するともっとよかったねと優しくアドバイスすると子どもたちは真っ直ぐ伸びていきます。

次に、授業参観の後の懇談会の問題です。

ある学校で、授業参観後に講師の先生を招いて教育講演会を開催した時のことです。保護者の8割程度の方が残ってくれて、学年の先生方もほっとしました。ところが、宿泊訓練の説明が終わったとたん、突然保護者が席を立ち、残ったのは1割ほどの保護者だったそうです。先生方は、講師の先生に申し訳ない、そして、講演内容が保護者の参考になることだけが残念だったと思ったそうです。

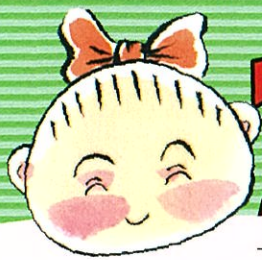
近年、いじめの問題や学級内の子どもたちの人間関係などが問題になっています。これらの問題は、先生方だけに任せておいてはいけません。親が真剣にならないで誰が真剣になるのでしょうか？

たまに会社を休んだから懇談会を抜けて買い物しようという気持ちはわかります。しかし、子どもより買い物の方が大切なのでしょうか？「勝れる宝、子にしかめやも」です。

- ◆ 廊下でおしゃべりをしていて、教室に入らない。
- ◆ 保護者のおしゃべりが、授業の邪魔になる。
- ◆ 香水の匂いがきつく、子どもたちが嫌がる。
- ◆ 教室の入口付近にいて、中に詰めようとしめない。
- ◆ 兄弟の教室をわずかな時間で見て回る。
※ もう少し見てくれていたら……。
- ◆ 懇談会には、わずかな保護者しか残らない。
※ 親が真剣に話し合わなければいけないのに
※ 本当に欲しい保護者はいない
※ 買い物は、子どもよりも大切なこと？



3月4日料理教室



大浜学園だより

平成29年5月号



大浜中学校区子ども育成支援協議会(大浜学園)の方針

子どもたちの成長を支援 保護者の子育てを応援 先生方の負担を軽減

問い合わせ先: oohamagakuen@gmail.com

大浜学園(大浜中学校区子ども育成支援協議会)は 子ども、保護者、先生方のための活動をします

平成29年度の大浜学園の活動が始まりました。

大浜学園(大浜中学校区子ども育成支援協議会)の役員は、右のとおりです。大浜学園は、大浜中学校区の理事区長さんをはじめ幼稚園、保育園、小・中学校の校長さん、PTAの会長さん、さらに社会教育委員さんなど、子どもたちを育成・支援しようとする方たちによって構成される組織です。

大浜学園は、大浜中学校区の子どもたちや保護者、園・学校の先生方のために、次の方針にしたがって活動していきます。

- 1 子どもたちの成長を支援する。
- 2 保護者の子育てを応援する。
- 3 先生方の負担を軽減する。

本年度の最初の活動は、大坂学校小(4月22日)、千浜小学校(4月26日)のPTA総会での子どもたちの見守り活動(右下の写真)でした。

8地区のシニアクラブの皆さんやおたいらの会の皆さんの協力を得て、DVDを見たり、ゲームやすごろく、お手玉、ストラックアウトなどをしたりしました。

今後は、学校とボランティアで学校を支援して下さる地域の皆さんとをつなぐ活動や、土日や夏休みに行う子ども教室などを中心に活動していきます。御理解と御協力をお願いします。

平成29年度 大浜中学校区子ども育成支援協議会

No.	区分	名前	組織・役職
1	会長	羽田 秀樹	青少年健全育成代表
2	副会長	溝口 正	大坂地区理事区長
3		大石 泉	睦浜地区理事区長
4		牧野 勝彦	千浜地区理事区長
5	監事	堀内 祥行	大浜中学校長
6	監事	田中 克美	大坂小学校長
7	委員	大倉 浩	千浜小学校長
8	委員	佐藤 勝子	大坂幼稚園長
9	委員	荒木 百合子	千浜幼稚園長
10	委員	松本 純子	睦浜幼稚園長
11	委員	渡邊 陽子	大坂保育園長
12	委員	藤田 紀子	千浜保育園長
13	委員	小山 雄	大浜中学校PTA会長
14	委員	川口 知史	大坂小学校PTA会長
15	委員	佐藤 和雄	千浜小学校PTA副会長
16	委員	鳥井 章弘	幼稚園PTA代表
17	委員	酒井 俊朗	大坂まち協事務局
18	委員	加藤 喜久夫	睦浜まち協事務局
19	委員	飯田 良昭	千浜まち協事務局
20	委員	落合 奈美子	社会福祉協議会
21	委員	鈴木 三代子	主任児童委員
22	委員	布施 正記	社会教育委員
23	委員	高橋 篤仁	社会教育委員
24	委員	尾原 希久子	大坂小学童保育指導者
25	委員	犬塚 江利	千浜小学童保育指導者
26	事務局	赤堀 敬子	地域コーディネーター
27	事務局	山崎 昇吉郎	地域コーディネーター
28	学校事務局	澤 崎 忍	千浜小学校教頭

「叱る」とは、

子どもに腹を立てることではありません。

子どもが、自分も他人も大切にできるように、1つずつ教えていくことです。



PTA総会時の放課後子ども教室

子どもが家で身につけたことは、生涯 ずっと生き続ける

文部科学省
『家庭教育手帳』より

子どもたちの一番の願いは？

「あなたの家庭にもっと望むことがあるか」と子どもたちに聞いたところ、どの年代の子どもでもいちばん多かった答えは「**家族のみんなが楽しく過ごす**」でした。そんな当たり前のことを子どもたちが願わざるを得ない現実を、親として真剣に受け止めたいものです。

必要なモノさえ与えていれば子どもは育つ、と思えた時代もありましたが、いまや楽しい家庭は家族が意識的に協力し合わなければなかなか得られません。

自分を大切にできないならば、子どもを大切にすることもできない。

子育ては大事ですが、一日中、わき目もふらずに集中しては疲れてしまいます。親のイライラは、子どもにも伝わっていくものです。

大変な子育てだからこそ、自分の時間をつくり、心を健康に保つことが大切です。夫婦で助け合ったり、子育てサポーターや子育てネットワークといった育児を手伝う仲間や仕組みを活用したりして、リフレッシュする時間をつくりましょう。

親が幸せで笑顔でいる家庭でこそ、子どもも幸せを感じられます。

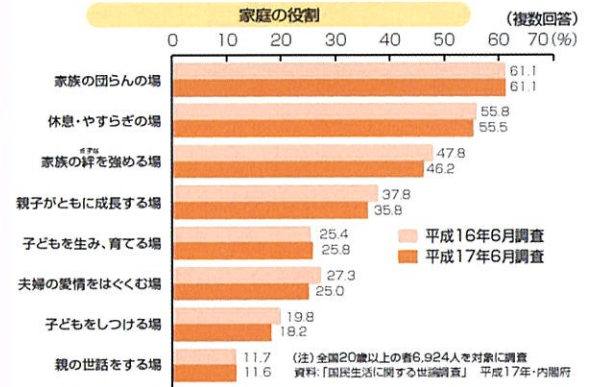


前向きな親の姿は、きっと子どもに届いている。

ひとり親家庭や共働き家庭では、親が働きながら子育てをするため、ゆっくりと子どもと接する時間が少なくなりがちです。しかし、子を思い、より良い将来に向かって努力する親の姿は、子どもたちの心に響いているはずですよ。

悩みなどは、ひとりで抱え込まず、親類や友人の協力を得たり、地域の相談窓口など、子育てを応援・サポートして

くれるシステムなどを積極的に活用したりしましょう。



話せばわかるとは限らないが、話さなければもっとわからない。

夫婦の間、親子の間での会話を増やしていくことが、家庭づくりのすべての基礎になります。ほんとうは夫婦でも親子でも何でも話せる仲でありたいものです。

日々の会話を増やすには、できるだけ一緒に食事をし、お互いにその日にあったことを話すとかが、一緒に家事をしたりスポーツをしたり、また地域のボランティア活動に参加したりする、などの工夫をすることが大切です。

また、思春期になると、男女とも身体が急速に成長し始めます。不安やとまどいなどがなく、身体の変化について話してあげることが大切です。

あなたの生き方が、子どもへの最高の教育になる。

これまでは勤勉で従順な人が社会から求められましたが、これからは問題を解決するために自分で考え、工夫し、行動する、勇気ある社会人が求められます。

自分や会社の利益だけでなく、家庭や地域、そして社会全体にまで目を配り積極的にかかわれる人に育てるために、まず親自身がその大切さを理解し、努力・挑戦することが大切です。



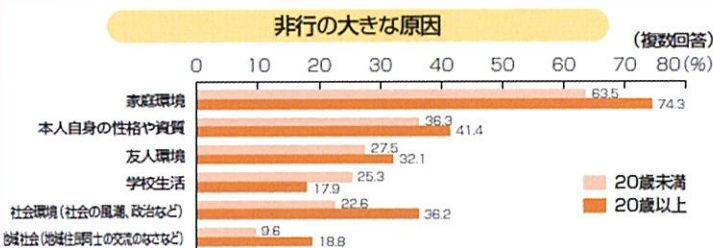
子育ては母親の仕事とそう思っているお父さんは要注意。

家庭での父親の存在感が薄いことが指摘されています。

母親だけに子育ての責任がゆだねられ、父親の理解や協力がないうちは、母親の子育てに対する不安感や負担感が増したり、母と子の関係が密着しすぎたりすることにつながる心配があります。

父親がもっと家庭の中での役割を積極的に担い、夫婦でしつけについてよく話し合っていくことが大切です。

そのためにも、夫婦はお互いに尊重し合い、子どもの前で相手をけなしたり、見下したりすることのないように気をつけましょう。



(注) 全国20歳未満の者(1,333人)、全国20歳以上の者(2,162人)を対象に調査
資料: 『少年非行問題等に関する世論調査』 平成13年・内閣府